

(意見書案第 18 号)

子どもの新型コロナウイルス感染症対策緩和を求める意見書

新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから間もなく 3 年を迎え、当初未知であったウイルスは、アルファ株、デルタ株、オミクロン株と徐々に弱毒化し、感染の波はあるが、軽症者は自宅療養が原則となり、保健所の全数把握は簡略化され、社会的な影響を軽減するために療養期間、待機期間が短縮されている。

また、感染対策としてオミクロン株対応のワクチン接種が開始され、感染リスクの高い高齢者の約 7 割が既に 4 回目のワクチン接種をしている状況である。

海外では、感染が拡大した状況下で、厳しい水際対策や濃厚接触者の特定・行動制限、休校等の効果・必要性は低減し、むしろ社会経済に与える弊害が大きいという考えの下、日本より感染状況の悪化した欧米各国が、オミクロン株の特性を踏まえ、規制を撤廃・緩和し、マスク着用なしの日常を取り戻している。

一方で日本だけが世界標準に取り残されており、特に厳しい感染対策を求められているのが、子どもたちの生活である。学校における感染症対策では、常にマスクの着用、手洗い・消毒、密にならない活動が求められており、文部科学省では「大声でなければ話してもよい」としているにもかかわらず、給食では「黙食」が推奨され続けている。今夏は、熱中症予防の観点で、登下校や体育授業でマスクを外すことが推奨されたが、いまだに多くの子どもが習慣化したマスクを着用している状況が見られる。教育現場では、感染者を出さないことが主眼に置かれており、多くの学校において屋外授業でも子どもにマスクを着用させたままの状態になっているのが現状である。

「マスクを外してもよい状況で外せない」という子どもたちの心理は、「自分が他の人に感染させてはいけない」という義務感や、「みんなが着けているから」という同調圧力、「誰かに注意されるのではないか」という恐怖心からきている。重症化するリスクの低い子どもがこのように長期間我慢を強いられ続けている一方で、大人の社会では「リスクはゼロにはならない」と、複数人での会食時の会話や、旅行支援の再開など基準を緩め、対応を変えている矛盾を子どもたちはずっと疑問に感じている。

学校生活で長期化するマスク着用で、「入学して以来友達の顔を見たことがない」、「黙って前を向いたまま食べる給食」、「慢性的な酸素不足による脳や身体への影響」、「免疫力の低下」など、常に呼吸が苦しい状況に置かれる子どもたちの深刻な状況をくみ取るべきである。マスク着用ができない、したくない子どもは、叱責、差別されることで、学校に行かないという選択をしている事例もあり、本来マスクの着用は任意であるにもかかわらず、「実質強制」とも言える状態は、子どもの意見表明や、差別の禁止を定めた子どもの権利条約を無視していると考えられる。

マスク着用の学校生活が長期化することで、各地で子ども・保護者からの声を受け、自治体が自主的に子どもの学校生活の規制を科学的に検証し、国の基準よりも緩やかにする取組が進められており、富山市など一部の学校では、給食時に机を丸く並べるなどして、互いの顔を見ながら、小さい声で話しながら食べるなど工夫しているところもある。

よって、国においては、コロナ禍におけるマスク着用の弊害から、教育現場等での子どもたちの健やかな成長と学びの場を守るため、一刻も早く「子どもの感染症対策の見直し」が全国一律に徹底されるよう下記の事項について強く要望する。

記

- 1 国が学校や地域で子どものマスク着用を推奨することは、実質的な強制となっており、長期化するマスク着用で、慢性的な疲労の蓄積や心身の不調を自覚できない、着用しなくても言い出せない等、深刻な状況をもたらしており、マスク着用による感染予防の科学的検

証と、社会的な規制緩和とのバランスを鑑み、子ども自身がマスク着用を「する・しない」を選択できるようにすること。

- 2 身体的、精神的及び発達上の問題でマスクをしない・マスクをできない児童・生徒がいることや、常時マスクを着用することに対して不安や不快、不調を感じ学校生活に支障をきたしている児童・生徒がいることを、児童・生徒・保護者・地域住民に周知し、このような理由でマスクを着用していない児童・生徒・保護者の意思を尊重し、差別や圧力が生じることのないよう指導を徹底すること。
- 3 給食等の時間に、友達と共に楽しく味わう「食育」は子どもの情緒を育むものである。教育現場等において続けられている給食等の「黙食」を緩和し、なるべく大声を出さずに会話をするなどの飛沫対策を行い、給食等の時間を友達と楽しく過ごせるような工夫が取られるようにすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月16日

釧路市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
文部科学大臣
厚生労働大臣

} 宛